

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立 小川高等学校 全日制課程)

目指す学校像	伝統校としての自覚を持ち、学習に重きを置き、行事や部活動等に主体的にチャレンジする生徒を育成する。
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 進学選抜クラスを核とする普通科全体の学力向上に努め、個々の生徒のキャリア意識の向上と進路指導の充実をはかる。 2 基本的な生活態度の確立をはかり、学校行事、部活動等に主体的に取り組む生徒を育てる。 3 保護者や地域との連携をはかり、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 3 1 日 現 在)			実 施 日	学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策		
1	<p>【現状】 生徒は落ち着いた概ね意欲的に授業に取り組んでいる。偏らない学力を向上させることにより、生徒たちの多様な進路希望は概ね実現されている。 【昨年度大学・短大進学率43.8%】 【昨年度生徒アンケートの授業満足度64.9%】 【課題】 生徒の進路への意識を高め、学校全体で生徒の学習環境を一層充実させる。本校独自の学力向上の取組に加え、「おがわ学」「未来を拓く『学び』プロジェクト」の推進を中心に授業改善に取り組み、より高い進路希望の実現を図る。</p>	<p>1 生徒の学力を把握し、基礎学力を向上させるための授業力の向上。 2 主体的な学習に向けた環境づくり。 3 3年間を見通した進路ガイダンス、進路に応じた補習等、多種多様な進路希望に応じた指導の充実 4 進学希望者に対する指導の充実。</p>	<p>1 教員を授業力向上のための研修に参加させるとともに、校内で公開授業・授業研究を開催する。【年2回】 2 放課後19時まで図書館を開放し、生徒の自学を促す【通年】。 3 計画的にガイダンスを行い、確かな情報を提供し各進路希望に応じた小論文指導・面接指導・対策講座を実施する。【通年】 4 スタディサブリの円滑な運営、学校独自の進学対策講座を行う。</p>	<p>1 全学年・教科による学力把握と分析、基礎学力向上の取り組みが丁寧に行われたか。 2 図書館ボランティアの方を募って開館し、生徒の自学を定着できたか。 3 生徒の意識を高めながら、計画的・効率的にガイダンスや指導を行えたか。 4 生徒の現状と希望を踏まえた対策講座を実施できたか。・生徒アンケートで進路指導満足度8割</p>	<p>○職員研修の充実により授業改善を実施できた 1 探究的な学びに向けて、5回の職員研修を開催した。(本年度新規) 2 夜間の図書館ボランティアのシフトを無休で組むことで、進学選抜クラスを中心に、自学の習慣を定着させた。 3 各種ガイダンス、小論文指導、面接指導、対策講座を計画的に実施した。 4 予備校講師による特別講座、学校独自の進学対策講座を実施した。夏季休業中に26の補習講座を開講した。(H30は24講座)・生徒アンケートで進路指導満足度82.6%(昨年85.8%)</p>	A A A B	<p>【課題】 1 「おがわ学」の定着。 2 進路実績の向上。 3 教育課程の見直し。 【改善策】 1 「探究的な学び」の職員研修。 2 「おがわ学」の活用も含め有名私大や地方国立大の入試を分析。進学選抜クラス委員会から進路意識向上の企画を提案。Wifi、外部教育ツールの充実 3 進路実現を見据えた選択科目。選抜クラスはGMARCH、普通クラスは推薦を中心とした進路指導体制。</p>		<p>学習意欲向上には生徒本人に明確な目的意識を持たせることが不可欠。一人一人に十分なコミュニケーションをとり、自信や将来への希望を引き出す指導を。 1年次から将来を考えさせ目標を定めさせることが必要。実現には何が必要かをもちと生徒同士が話し合わせるべき。</p>
2	<p>【現状】 生徒は穏やかで真面目な高校生活を送っており、本校に馴染んでいる。 【昨年度生徒異動6名】 【課題】 規律、自主性のある学校生活を土台に、学校行事、部活動等に主体的に取り組ませ、充実した学校生活を送らせるよう指導する。 文化祭等の各種行事の準備、指導を工夫、改善する。</p>	<p>1 学級・学年・生徒指導部の連携と補助着、スカート丈の指導の徹底 2 安全安心な学校生活をするための教育の推進 3 生徒主体による学校行事の推進と指導体制の改善</p>	<p>1 共通理解に基づき、担任を中心に学年・生徒指導部で連携して日常的な生活指導を全職員で行う。【通年】 2 交通安全、薬物防止、盗難防止、防災、情報モラル確立を推進する。・外部講師を招聘し講演会を実施 3 生徒の要望を吸い上げ、生徒主体による学校行事、特に文化祭は全職員で指導し、多くの生徒の活動の場をつくる。【通年】</p>	<p>1 日常の挨拶や集団生活のルールが守れるように連携して指導できたか。・生徒アンケートで規則遵守9割 2 安全に生活するための教育(交通安全、薬物防止、盗難防止、防災、情報モラル確立)を実施できたか。 3 生徒の要望を吸い上げ、生徒主体による学校行事を全職員で指導し多くの生徒の活動の場を作れたか。</p>	<p>○基本的な生活習慣と規範を指導できた 1 服装・頭髪指導を学年集会、全校集会などあらゆる場所で行った。・生徒アンケートで規則の遵守96.2%(昨年度93.4%) 2 交通安全や薬物防止等に向けそれぞれ工夫した講演会等を実施したが、情報モラルの確立については、さらに成果が反映する手立てが必要。 3 どの委員会も生徒の出席率が高く、明確な目標を設定し効率的に動いていた。また、全教職員も協力して指導できた。</p>	A B A	<p>【課題】 1 SNSの利用法の指導と、情報モラルの確立。 2 HRや各行事でのリーダー育成。 【改善策】 1 全生徒、全職員に指導基準を周知、徹底。 2 生徒のリーダー育成を図る企画立案。行事を学校全体で取り組む体制の整備。</p>		<p>校則や生活態度に対して「自分のため、他人に迷惑をかけないため」等、根本を考えさせる指導を。 学校行事は全員参加型で、リーダーを中心に役割を明確にし、役割の大切さと達成感を味わえる指導を。 生徒の身なりは外部から観察されやすい。学校の広告塔でもある自覚を。</p>
3	<p>【現状】 学校説明会等の実施時期や内容を工夫すると共に、近隣中学校主催の進路説明会にも全て参加し、募集定員の確保に努めている。また、PTA行事についても、より多くの保護者が関わりやすいように改善している。さらに、PTAニュースやメールシステムを活用し、適切な情報発信に努めている。 【課題】 本校の魅力の的確に伝えられるように、ホームページ等の更新に工夫を加える。また、「おがわ学」の推進により、地域と学校が共に生徒の成長を支援する。</p>	<p>1 学校説明会、個別相談会、授業公開、中学校訪問、中学校進路説明会の効果的な実践。 2 保護者と連携しながらの教育環境の改善・向上。 3 地域と共同した行事の推進と指導体制の改善</p>	<p>1 全職員が協力して、本校の魅力伝えていく。 ・年2回の外部向け授業公開 ①本校保護者及び中学生とその保護者に公開 ②彩の国教育週間 ③学習塾等対象の授業公開 ・年5回の学校説明会と全職員による年2回の中学校訪問。 2 登校指導や文化祭などの学校行事を中心に協力。 3 地域行事の参加について全職員で指導し、より多くの生徒に地域貢献の機会を与える。</p>	<p>1 生徒募集に関わる行事に全職員が積極的に参加・協力して取り組み、充実したものになったか。 2 登校指導や文化祭などの学校行事を保護者と共に協力して実施できたか。 3 学校全体で10以上の地域行事に参加させ、地域とともに生徒を指導できたか。</p>	<p>○開かれた学校づくりを全校で推進できた 1 全職員が協力して、計画した全ての取組を遂行し、県内中学校に本校の魅力アピールできた。・入試倍率1.12倍(昨年度1.04倍) 2 登校指導(年5回)、文化祭バザー、図書館ボランティア(毎日)等、保護者の協力を得ながら実施し、教育環境を改善させた。 3 「おがわ学」の推進により地域連携が促進され、その模様を逐一HPに掲載した。成果を町立図書館に展示してメディアに取り上げてもらうなどの工夫もできた。</p>	A A A	<p>【課題】 1 入試倍率の急激な上昇による隔年現象対策。 2 PTA行事の魅力化。 3 町との更なる連携強化。 【改善策】 1 進路実績、部活動実績などを地域に積極的に発信。 2 PとTと一緒に学校を盛り立てられる企画の立案。 3 「おがわ学」の各種取組を学校全体で推進。</p>		<p>卒業生に「高校時代に必要だったこと」「役立ったこと」「足りなかったこと」等をヒヤリングやアンケートで聞き取り、情報共有、精査すれば学校運営に役立つ。 さまざまな機会・媒体を通して絶えず情報発信を。外部の人が学校を判断するのは学校が出す情報によるところが大きい。</p>

